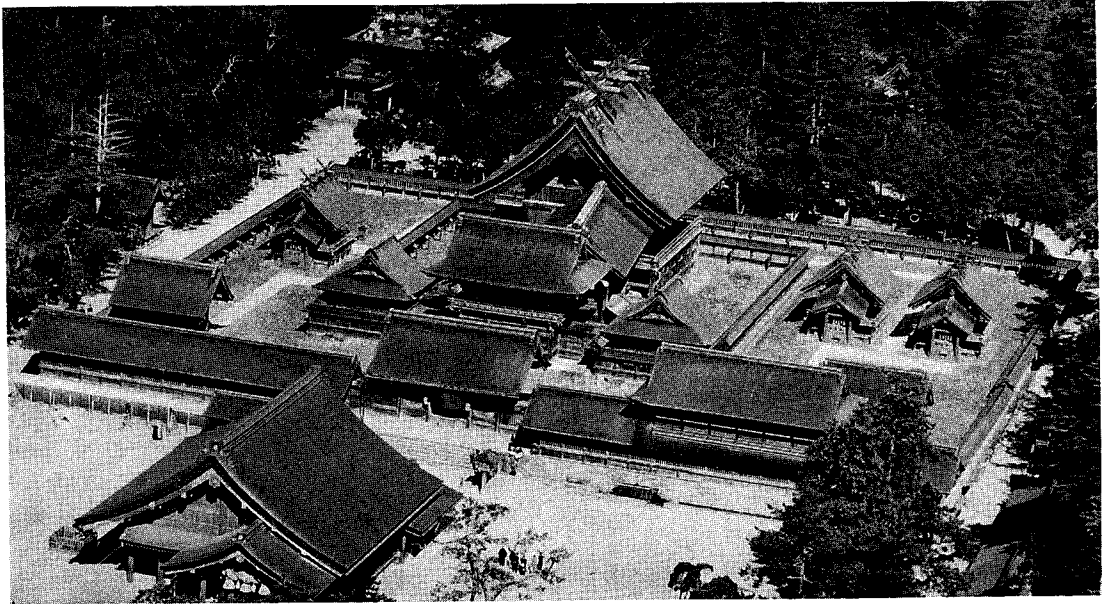


図書館だより

題 字 田部島根県知事

号 数 第 11 号
発行日 昭和 46 年 1 月 15 日
編 集 楫 野 健 治
発 行 島 根 県 立 図 書 館
松 江 市 内 中 原 町 52
TEL (0852) 22-5725
印 刷 (有) 高 浜 印 刷 所



出 雲 大 社 提 供 川 本 貢 功 氏

年 頭 初 感

調 和 と 美 と

あまりに欲張ったり、ものを深追いし過ぎると、必ず破端がでてくる。

情報化産業の現代では、「欲しいものは、しらせなさい。なんでも造ってあげます。」というところまできた。それが、自由の証でもあるかのうように。

技術改新の能力でもあるが、反面、公害といわれる災が、自然を侵し、人をおびやかす。

経済・社会の我まゝや行過ぎの破端であり、いまほど「調和」の価値感が痛切に考えられるときはない。そのことは、ひとり産業の面のみではなく、自然科学の全般から文学、芸術、社会生活から娯楽に至るまですべてにいえることである。

ある人が、囲碁の名局を評して、調和と美を感じると表現した。名棋譜とザル碁のちがいは、勝負勘の優劣を盤面に具現しているに相異ないが、それが美感や調和の質の高さをそのまゝ、現わしているかは、よく解らない。それにしても、息絶えた石の惨骸は美しいとはいえないし、一つ一つの力が相刺した黒白の勢いが彼我の均衡を保ちながら、画いた絵模様は、たしかに調和であり美的ともいえよう。

日常生活にも、調和とゆとりが欲しい。そのことが美しい近代社会につながっていく。

これから図書館でも、人と自然、調和と美に関する知識情報がますます盛んに活用されることを希うことしきりである。

万博をまねた訳ではないが、今年は、調和と美とがすべての事象の中で重視されることを祈念する。

県立図書館長 楫 野 健 治

新年に際して

図書館協議会議長 奥原・秀夫



しかつめらしく、新年に際してというからには、一応改まって物申すのが、常識的ですが、新年早

早、肩のこるような読書論はありません。島木赤彦の歌に、「正月三が日は、とそ気分のうちとけて、子供らさわげども、う

るさがらず」という意味のがあります。そこで漫談をひとつというわけです。

わたしたちは、幼い頃から、文字を教わりおぼえて来ました。小中高大、と学校時代には、文字を読むこと、書くことによって、いろいろな知識を得、考えを深めました。それが一旦社会に出ると、次第に書くこと、読むことに、うとくなってしまう。年をとるに従って、その傾向一層甚だしくなります。

まず書くことについてであります。住所姓名を書く機会は、日常生活に度々生じます。しかしハンさえおせば、人に書いてもらっても大抵の場合通用します。手紙を書くこと、これも無理に自分でペンをとらなくても、人に頼んで書いてもらうことができます。ラブレターの代筆を頼んだという話もあります。最近のように電話が便利にかけられるようになると、相当遠方まで、大抵のことは電話ですませるようになりました。筆無精にはまことに結構なことです。まさか日記を他人に書いてもらう者はありますが、大多数の人は、はじめから日記なんかつけていません。とすると、自分で字を書く最少限の必要は、選挙の投票くらいのものか知れません。

つぎに読むことですが、これまただんだん読まなくなすませるようになって来ました。テレビさえ見ておれば、表面的な事実はニュースが教えてくれますし、ドラマを見ておれば、世相の変化もわかります。「今晚も何何放送の番組でお楽しみ下さい。」と、言われた通りに、一晩中テレビの前に座って動かない人は沢山あります。新聞なんか読まなくてもよいといって、実際新聞を読まない人は沢山ありますが、新聞をとらない家は稀でしょう。通勤電車の中で週間誌を読んでいる人は多いし、大人向きにせよ、子供向きにせよ、雑誌が一冊もないという家庭は少いでしょう。ところが本となると大分様子が

変わって来ます。若い頃には、本を読んで勉強もしたし、小説を読んで徹夜したこともあったが、だんだん仕事は忙がしくなるし、遊ぶことはいくらでもあるし、そのうち年をとると、視力にはぶるし、活字は小さくなって読みづらくなりだんだん本を開かなくなり、中には学校の教科書以外本を手にしたことはないという人さえあります。それなのに、本屋へ行ってみると、足元から天井まで、壁一面に並べられた本が、のしかかるように、威圧するように、その存在を主張しています。勿論著者としては、読んでもらいたいだろうし、出版者としては買ってもらいたいにちがいません。世界的な出版国日本の、このおびただしい出版物は、一体誰によって買われ読まれるでしょう。本を買う人は必ずしも読むために買うとは限らない。きれいな背表紙を並べて、部屋の装飾としたり、やがて値の出るのを楽しみに、ギャンブルの対象としたり、持っていないと肩身がせまいと思ったり、ただ表紙をなでているだけで嬉しがっていたり、さまざまです。やたらに豪華本が現われたり、出版部数の少い限定本や、初版本、珍本あさがりが行われたり、三島由紀夫の本が一日で品切れとなったりする所以であります。

しかし本は、本来読まれるべきものです。娯楽にせよ、教養にせよ、目的は何にせよ、本は読むべきものにちがいません。ところで、ここに問題があります。一体わたしたちは、何を讀んだらよいのでしょうか。かりに耶馬台国について知りたいと思っても、幾通りもある関係書のどれを選んでよい、素人にはさっぱりわかりません。今年度の何何賞受賞作品だということで読んで見ると、なるほどそれはすぐれた文芸作品かも知れないが、何を言っているのかわけがわからない為、結局うまいお菓子だと思って口にしたら、それは土の魂だったというような味気ない目にあうことも珍らしくありません。そこに本の選択、読書の指導をしてくれる者の存在を必要とします。人はそれぞれ境遇もちがえば、趣味教養も異なっています。本の選択は本来自由にまかすべきものなのでしょう。しかし大空の星のごとく無数にある中から、よいもの、適したものを選び出すことは、ほとんど不可能に近いでしょう。本の選択、解説、読書の指導は、図書館の最も重要な任務のひとつであります。

私達の読書グループ

私達の住む比田地区は広瀬町の中心より二十キロメートルの山間地にあり戸数約四百戸の小さな地区、本屋さんの軒もない図書館と言えば比田公民館の小さな図書館が唯一の本屋さんがわりのそんな地区である。こんな地区に県立図書館の移動文庫が来ることになり、これを機会に18才～26才の若者20人で比田地区青年読書会を結成しました。平素農村に住み閉鎖的なうえに忙しく仕事に追い回されている私達が青年らしく生きるために心の友を求めて読書を通じて仲間をつくり明日の比田を創ろうと結成したのでした。本を読むことにおっくうなうえに、それぞれ仕事を持った私達でしたので結成当時は苦勞の連続でした。集会を開いても集まらない雑談に終り真剣な討論がない。これでは読書を通じた仲間の会ではない。これではだめだと思うようになり、そこでそれぞれの会員がテーマを持ち寄り、それを中心として活動をする様になりました。これが私達の活動のやり方です。原則として毎月一回開いています。ある時は公害問題を取りあげた新聞の切りぬ

比田地区青年読書会

きを持ち寄り、公害問題について公害はなぜ起るか、責任の所在は、私達の役割はと夜中の三時まで討論しました。ある時はルポライター五島昇さんの戦後米軍占領下の秘史「戦後の暴力史」を読み感想を述べながらアメリカ占領下の沖縄住民を思い、沖縄の今後を討論しました。又ある時は他地区のグループと「青年はいかに生きべきか」「結婚について」と交換会を開きました。このように私達の活動はテキストによる運営でなく身近なテーマを中心とした活動です。現在私達の住む比田地区も過疎化が進み人間同志が疎遠になり人間同志の心のふれ合いが少なくなりつつあります。明日の比田地区を背負う若者がこのような人間不在の世の中で読書を通じて心のかよい合う仲間をつくり豊かな地区づくりに活動していることを私達は誇りに思っています。

今後とも一人でも多く仲間の加入を勧め読書の楽しみを育てると共に心の通じ合う仲間づくりを中心とした活動をしたい思います。(足達修)

レファレンスコーナー

(問) 核酸について知りたい

(答) 核酸については一般にあまりよく知られていないが、あらゆる生物が生きていくうえで必要なたんぱく質の合成や遺伝に重要な働きをする物質である。1889年に発見され、細胞の核にある酸性の物質というので核酸となづけられた。核酸は有機塩基・糖・磷酸が分子ずつ結合した単位(ヌクレオチド)が多数集まってできたものである。有機塩基は四種、糖は二種あり、糖の種類によってデオキシリボ核酸(DNA)、リボ核酸(RNA)に大別される。DNAが遺伝の本体(遺伝子)と考えられている。DNAは二重らせんによる1本の糸状の形をし有機塩基の並び方によって遺伝情報が決まるという仕組みになっている。その情報量はウイルスで数十万、人間で数十億といわれている。DNAの遺伝情報はどのようにしてたんぱく質に伝えられるかが現代的課題となっているが、RNAと密接な関係があると考えられている。

〔資料〕原色現代科学大事典 7 学習研究社

153～194ページ

世界大百科事典 4 平凡社 核酸の項
生命を探る 江上不二夫著 岩波新書

103～133ページ

生命の秘密 L・ボーリング他著
白揚社 136～195ページ

<図書館司書のメモ>

朝の静かな開館から、あわただしい閉館まで、様々の人が図書館を訪れる。

そして、そのうちの幾人かの人が貸出証の登録をしていく。証明書がないと発行できないことを告げると、本当にうらめしそうに、時には「役所仕事だ。」と捨てゼリフで去って行く人もいる。かと思えば「いくらですか…」等。

図書館は本を貸すところとは知っていても、その利用方法を知らない人があんがい多いのではないだろうか。確かに学校等で利用しなれている学生、生徒は割に気安く入ってくるけど、大人の人は、少数を除いて、あまりうまく利用しているとはいえないようだ。

門番のように、上り口にすわっているのはさぞ、目ざわりだろうと思う。いくらかでも入り易くするためにはどのような態度でいるべきか。「いらっしやい」などと声をかけるのもおかしいし、やはり、昔、そういうふうな川柳があったように、本みたいな顔をして何となく、ムツリしているより他ないのかとも考える。

しかし、現代は現代。今の時代にマッチした図書館(員)にしていかなければならない。「1971年、情報化時代の図書館」とカッコイイ面も大切だが、そのためには我々がもっともっとがんばらねば、そして、見かけだけでなく中身の伴うようにと感じるこのごろである。

大人も子供も一日に一回は、本の、図書館の話題がでるようになれば素晴らしいと思う。 大 国 久美子

公共図書館の広場

大社町立図書館の巻

設備不完全であり内容も極めて貧弱ではあるが、閲覧者の自由にまかせ、そしてお互いに深く信じ合っの約20年間、現在では蔵書数 9,800冊を有し、現在の建物に移り、看板も塗り替えて、大社町立図書館としたのは一昨年2月でありました。それまでは町公民館の1隅の狭い間で、看板は大社町公民館附属図書館でありました。その実は図書室と称するに適切な存在であり書庫の内で読書をするという、極めて狭く暗いものでありました。書棚が足りないので図書を2列に並べており、奥には一体何の本があるのかわからない。来館者もそこら手あた



り次第に引っ張り出し、うす暗い机の上にうつ伏すといった始末で、大部分は貸し出しとなる状態であり、係員すら、『こりゃ貸本屋だ。』とさえ感じたものでした。現在でも書庫と閲覧室とは同一となっておりますが、広く明るく環境もよく、特に階上のため、外部よりの雑音も遠く感ぜられ、誠に昔日の感なからしめております。然かし振り返ってみますと不完全なるものであるにせよ、よくもここまで整ってきたものよと深い感慨に打たれます。当初、それは昭和26年であり、僅か2、30冊の有り合せのものを基とし、役場より50冊位をもらい又他より多少の寄贈を仰いでもなお100冊に満たない蔵書をもって古戸棚を幾つかならべ、所謂図書館というものを創始し一般に呼びかけたのですが、『図書館とは本をしまっておく所』ぐらいしか認識がなく、止むなく先づ青年学級生を対象とし、『図書館というものは』からPRを始め読書クラブを結成し、町内一般にも呼びかけることとなりました。そのうち次第に老人連あたりからようやく親しまれるようになり、係員も兼務者から専任者へと代り、先づ型を整えねば、と懸命の努力、然し蔵書の大部分は興味のうすいものばかり、折角の来館者も、うろうろするといった有様で、誠に情ない実情でした。が年予算

3,000円を認められ専ら基本図書の購入に力をつくし、その数も次第に増して来て、予算も又逐年増額され、4万という額となった。それが10万20万となるに及んで、郷土資料の蒐書も併せ行うこととなり、蔵書数も町民各位よりの寄贈で次第に多くなり遂には公民館の一室もいよいよ狭くなりましたので、前記の如く現在の建物に移りました。この建物は以前よりある町有のもので階下を民族資料館とし階上を図書館としたのであります。広さは99㎡閲覧席36席で年間利用率は遂次上昇し44年度では、1日平均利用人員23人、貸出冊数35冊、年間利用者数は延 8,100人に到っております。全館開架式で各自希望の本を自由に取り出して読むことが出来、貸出方法も極めて簡単にし只貸出票に記入し登録証を預るのみ、新規登録も申し出のすべてを信頼しての取扱をして即時発効であります。現在尚、恰も書庫内での読書といったやり方ですけれども、これ迄間違とか誤りによる問題が起った事は殆どなく、利用者係員共よく実情を呑み込んで気軽に、双方信頼のもとに読書、時には館内で郷土玩具、水石、鉱物その他各種標本、和古本、等の小展示も行っている次第です。この図書館は設備やそのやり方に於て誠に不完全ながら最も自由であり、最も信じ合っお互が楽しく図書館を利用して居る点にいささか誇りと感激を感じている次第です。今後の希望としては書庫を別とすること、児童室と一般成人室を区別すること、図書購入費の増額をお願いすること、等其他色々な計画をもってありますが、これまで忍んで来た不自由と労苦をもってすれば、この希望も遠からず達成し得るものと大いに期している次第であります。以上申し上げました他の数字的な事柄は、『島根の公共図書館』中の公共図書館統計調査(昭和45年4月1日現在)についてご覧いただきたく存じます。



成人の日 おめでとう

私がおすすめる本

「世界の宗教3」告白と抵抗 プロテスタント

木村尚三等著 淡交社 750円

現代の日本ほど、宗教が混乱している国はないという。その事すら異常と思わない私たち。「世界の宗教」シリーズ全十二巻は、この事を自覚させるだろう。特に本書は、キリスト教の中でも比較的なじみ易いプロテスタントを、宗教改革期まで溯り、紆余曲折を経て、どのように今日の姿にまでなったかを、著者三人の自由な立場で概説した書物である。

「人間の死にかた」 中野好夫著 新潮社 370円

もし生あるものは滅びるという命題が無視出来なければ、人生の門出に立たれた方々に薦めても、納得出来る書名であろう。本書は著者の死観を述べるというより、トルストイ、白鳥、フロイト、親鸞、江藤新平、プーシキンの晩年と、そして彼らがその死をどのような態度で迎えたかを、間接的アプローチという方法を用いながら、読者に「死」について考えさせる材料を提供する書物である。大江 孝子

「子にわびる母の記録」 田中澄江著 430円

青春出版社発行

母と病弱な子供との断ち切る事の不可能な深い絆を、戦前戦後の困苦を通じて具現されている。ドキュメントとして、簡単に片付けられない様な深い意味を与えているのだ。「子供よ、あなたを生もうとして生んだのではないのです。もしも、あなたが今に生きている事を辛く思い、その苦しみの根源を父や母に置くなら間違っています。その時自分より大きな力が宇宙に在る事を知って下さい。……」母という逃れられない立場、子の幸せを一生祈り続ける切なる気持が、この文面に力強く響き渡っているようだ。 柏木 典子

「またふたびの道」 李恢成著 講談社 420円

第12回群像新人文学賞受賞。サハリン(樺太)の朝鮮人を主人公に「またふたび」故郷の土を踏めるよう祖国復帰の物語である。家庭にあっては、祖国分裂の憂鬱の中で、各人が明日に期待をかけ生きぬこうとすれば、時にはいがみ合いともなる。常に、自分は朝鮮人だと一種特別な感情を抱く。これは、社会の中で葛藤する一朝鮮人の姿がある。 来島 弥生

「人間の出發」 山本茂実著 青春出版社 430円

著者の体験をとおりて人間の生き方を具体的に例示しつつ書かれています。青年期の読書は人生観に大きな影響をうけたり、その後の生き方に大きな方向が与えられたりするものです。青年期は内向的な、また主観的な時期で、物思いに沈んだり、思索にふける時代だと言われています。この本は若い人達に勇氣と心の支柱を与えてくれるものと思います。 木佐 由延

「約束された世界」 石川達三著 新潮社 650円

人間には夫婦・親子・兄弟・友人・同僚等と数多く

の関係がある、そしてその関係には常に約束があり、束縛がある。束縛されたくない、自由でありたいと思ってもその束縛の中に人生があるのである。このように一つの行為が真実と虚偽と矛盾した二つの作用を持っている。「約束された世界」とは論理的に考えてみるとごく当然の事ではあるが、その当然さが何か新鮮な感覚として写ってくる作品である。 久保田順子

「公害の政治学」——水俣病を追って——

宇井純著 三省堂発行 250円

本書は副題にもあるように水俣病の発生から今日に至るまでの克明な記録書である。熊本県水俣市に起った奇惨なこの病気は熊本大学などの非常な努力によって、工場廃水中に含まれる有機水銀が原因である事が究明された。しかし、真実が明かされるまでの工場側およびその関係団体の圧力と防害はもとより、一般市民の無理解は被害者に想像を絶した苦しみをなめさせることになった。戦後最大といわれる水俣病の実態を知ることによって今後の公害問題に賢明に対処すべきであろう。 豊田 邦雄

「古寺巡礼」和辻哲郎著 岩波書店 400円

大正八年初版のこの書はもはや古典といわれるかもしれない。しかしすくなくとも古寺巡礼を志す者にとっては必読の書である。哲学者で評論家でもある筆者の豊富な語彙を駆使して綴られた文章は単なる作品紹介にとどまらず日本語の真の美しさにふれるおもいである。実際に奈良の寺々を巡る人にとっては勿論、机上の旅を楽しみたい人にも、かの地の有様を彷彿と想い浮べることができる最適の書である。 深田百合子

「カラマーゾフの兄弟」

ドフトエフスキ著

平凡社 330円 二冊上下

本当の文学というものは、人間性のおそろしさ、人間とは救われないものであるということを教えてくれる。この作品は精神を鼓舞させ、悩ませる。人生の目的や希望は与えてくれないが、人間の深淵を直視させ、人生の不条理に耐えられない人々を十分魅了させる。成り上がり者の老地主、直情径行な長男、ニヒリストな次男、信心深いやさしい末弟、下男になっている異腹の兄弟、そして地主は何者かに殺される。藤井幸子

「ライ麦畑でつかまえて」 J・D・サルンジャー著

白水社 450円

「幸福を祈る」なんていう言葉はインチキだとしながら、自らも虚偽におちいってしまう主人公。彼は中産階級の16才の少年です。優しい心を持った、むしろ非行少年といった方がいいのかもしれませんが。学校を辞めてからニューヨークで過ごした三日三晩の出来事を、大人になりきれない感覚でとらえています。「これは一つの段階を通りすぎようとしているんだ」と彼にも分っているのです。大人の世界の複雑さに疲れた時、あなたも主人公のように小さな子供へ全身の共感を示すのでしょうか。森広 量子

寄 贈 図 書

ご惠贈ありがとうございます

45年9月～11月



— 9月1日から11月末日まで —

図 書 館	住 所	氏 名
松 籙	松江市	松江南高等学校
中海周辺地区における 大規模工業開発に関する 調査報告書	"	島 根 県
島根の建築 書 と 私 研 究 紀 要	"	建 築 課
湖 陵 町 誌	浜田市	喜代吉効人
小泉八雲書簡	松江市	出雲高、松江南高
海洋と環境	松江市	湖陵町役場
内田繁太郎略伝	松江市	西田敬三
島根県人名事典	"	齊藤行正（郷土出身）
同窓会員名簿	"	内 田 映
梶 川 旬 集	"	伊藤菊之輔
邪馬台国の所在とゆくえ	"	島根大学文学部内
高瀬荘太郎	大阪府	旧制松江高等学校同窓会
島根新聞誌第1号	東京都	馬 場 庄 八
福岡市史第5巻	松江市	久 保 泉
島根の釣り	松江市	高瀬荘太郎先生記念 事 業 会
水戸二高70年史	水戸市	桜 木 保
学校図書館の経営	兵庫県	福 岡 市
中 野 村 誌	伊丹市	福 田 茂 宏
建築業協会賞作品集	石見町	茨 木 県 立 水 戸
喜如嘉の民俗	東京都	第二高等学校
鳥取県の考古学と文化	沖 縄	尾原淳夫（郷土出身）
財保護のあゆみ	江津市	伊 藤 一 知
江津のはなし	那賀郡	建 築 業 協 会
那賀群史	東京都	平 良 豊 勝
福原信三	"	佐 々 木 謙
東京都の社会福祉	松江市	森 脇 太 一
研究報告集	大阪市	大島韓太郎
70年代の住まい	東京都	資 生 堂
高田集蔵追悼録	松江市	東 京 都
鳥取県立米子図書館	大阪市	島根県立教育研究所
20年史	米子市	勤労者住宅協会
赤ちゃんの名づけ方	横浜市	高 田 満 穂
赤十字90年	松江市	鳥取県立米子図書館
郷土に生きる私の実践 と今後の抱負	"	三 登 孝 男
日本万国博ニュース	大阪府	日本赤十字社島根県支部
明治天皇紀第4	東京都	県立青年の家
長浜学校誌	出雲市	日本万国博覧会協会
敵討忠臣女三つ巴全	益田市	宮 内 庁
		出雲市立長浜小学校
		益田市立図書館

9月1日	新聞展（9月中展示） 自動車文庫巡回（釜川コース）〔以下BM〕
2日	BM（島根半島コース）
3日	BM（伯太コース）
4日	BM（湖陵多伎コース）
7日	BM（美廉コース、11日まで）
8日	東京都中野区立中野図書館大岡館長来館視察
12日	文化映画を見る会、ステレオコンサート 〔集会室〕
17日	東出雲町立意東小学校4年生PTA60人来館 見学
18日	BM（島根半島コース）
19日	古文書を読む会〔集会室〕
24日	BM（那賀コース、26日まで）
25日	郷土文学に親しむ会〔集会室〕
29日	BM（広瀬、横田コース、10月1日まで） 〔9月中閲覧者総数 11,844〕
10月1日	郷土人文庫展（10月、11月中展示） 平田市立伊野小3年4年見学50名
3日	文化映画を見る会、ステレオコンサート 〔集会室〕
6日	BM（邑智コース、9日まで）
8日	広瀬町立上山佐小学校80名見学
12日	本に親しむ婦人教室〔集会室〕
16日	秋季ばく書〔休館25日まで〕
17日	古文書を読む会〔集会室〕
22日	全国公共図書館視聴覚分科会研究集会 （23日まで）
27日	読書週間（11月9日まで） 移動図書館特別巡回（鹿島町、八雲村）
28日	28日（安来市、布部村）29日（大東町、仁多 町）30日（大社町、大田市） 郷土文学に親しむ会〔集会室〕
28日	大社町家庭教育学級43名見学学習 〔10月中閲覧者総数 6,345〕
11月4日	移動図書館特別巡回（5日まで 木次町、三刀屋町、赤米町、出雲市）
7日	「古文書を読む会」を語る座談会〔集会室〕
9日	滋賀県青年研修生25人来館視察
10日	移動図書館特別巡回（13日まで、益田市、津 和野町、柿木村、石見町、瑞穂町、匹見町、 浜田市）
14日	文化映画を見る会、ステレオコンサート 〔集会室〕
	大阪市立森館長、大宮市立山岡館長来館視察
16日	読書普及振興大会〔集会室〕
17日	本に親しむ婦人教室〔集会室〕
21日	古文書を読む会〔集会室〕
24日	BM（邑智コース、27日まで）
27日	郷土文学に親しむ会〔集会室〕 〔11月中閲覧者総数 10,025〕

図書館ニュース

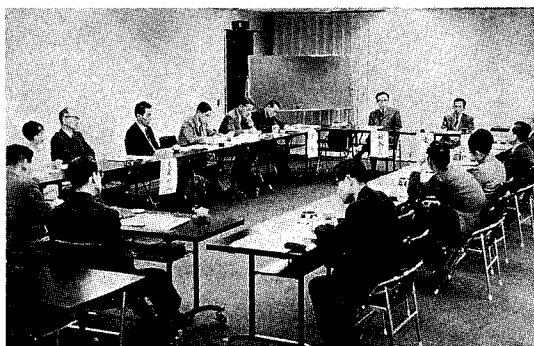
県公共図書館協議会開く！

島根県公共図書館協議会は、図書館事業の振興と各図書館相互の連絡提携をはかるために開催されるが、昭和45年度秋季総会ならびに研究会が去る12月2日当館集會室で開かれた。

当日は県内10の公共図書館から関係者20余名が出席し、来年度事業計画を中心として終始熱心な研究討議が行なわれた。

主なる研究、協議題はつぎのとおりである。

1. 職員の交換研修について
2. 昭和46年度事業計画について
3. 昭和46年度中国地区公共図書館職員研究集会について
4. 市町村立図書館の来年度予算増額のための側面的な働きかけについて
5. 郷土資料総合目録追加目録編集状況について
6. 全国図書館大会の状況について



県立図書館事業予定

月	旬	事業名	対象	場所	展示コーナー
1	上				不昧公 図書館 資料展
	中	本に親しむ婦人教室 (第4回)	会員	当館	
	下	県図書館協会臨時会	"	"	
2	上				百 科 辞典展
	中	本に親しむ婦人教室 (第5回)	会員	当館	
	下	自動車文庫巡回 (第4回)	一般	関係市町村	
3	上	郷土文学に親しむ会 (第5回)	一般	当館	良 書 百選展
	中	本に親しむ婦人教室 (第6回)	会員	"	
		県図書館協議会	委員	"	
	下	自動車文庫巡回 (第5回)	一般	関係市町村	

「古文書を読む会」

を語る座談会開く！

当館の「古文書を読む会」は、昨年1月以来20数回を重ね、会員数の増加と、内容の充実によりいよいよ好評のうちに開催されているが、各会員相互の親睦をはかり今後の同会運営の参考資料とするために、去る11月7日当館集會室において座談会を開催した。

当日は、県立松江南高校藤岡大拙先生、県立出雲高校藤沢秀晴先生の両講師をはじめとして、各会員、図書館員等30余名の参加を得て、司会者には県立図書館嘱託桜本保氏を選び、各会員の自己紹介、入会した動機、経験談、希望意見等和やかな中にも活発な話し合いがなされ、盛況のうちに有意義に終了した。なかでもこれら貴重な古文書の散逸を防ぎ永久に保存する郷土資料館(仮称)建設の早急実現方について、強い要望があったことは注目に値することであり、同会の今後の目標として1つの課題を提起したことになろう。

またこの会の隆盛を期して、春秋2回この座談会を開いて各会員の意見を反映して会の運営をはかるとともに、相互の親睦をはかることが決定された。

人事異動

◎お世話になりました。

図書館協議会委員 大坪 併 治 (岡山大学へ)

司書補 森 広 量 子 (12月31日辞職)

◎よろしくお願いします。

司書 矢 倉 忠 臣

司書補 新 宮 洋 子

あけまして

おめでとうございます

昨年中はご協力ありがとうございました

本年もよろしくお願いいたします

昭和46年正月

「図書館だより」編集部

新着資料の紹介

1. 図書資料

書名	著者名
総記	
世界の一流新聞	ジョン・メルル
情報整理学	川勝 久
哲学	
愛国心について	読売新聞社編
人格診断法 ―ロールシャッハテスト―	本明 寛
成功術入門	レイモンド・ハル
歴史	
私記軍人六十年の哀歓	今村 均
山 陰	下村 章雄
昭和史追跡	新名 丈夫
社会科学	
公害の紛争処理と被害者救済	野村 好弘
労務管理要論	掛谷力太郎
昔話研究資料叢 全12巻	稲田浩二等著
沖繩・北方領土	時局研究会編
日本新教育百年史 全8巻	小原国芳編
自然科学	
予防精神医学	カプラン
応用数学力学講座 全15巻	齊藤修等著
食用植物図説	女子栄養大出版部
工 学	
大気汚染と自動車排気ガス	景山 久
電子計算機の原理と構造	桑原 守二
こめ料理全科	多田鉄之助
住まいのシステム	清家 清
産 業	
減反農政の争点をつく	農政ジャーナリストの会
二科商美作品集	三彩社編
時刻表マニア	鈴木 良徳

芸 術

安全なスキーのために	全日本スキー連盟
陶芸の技法	田川 耕一
現代日本映画論大系 全6巻	小川徹等編
写真芸術を語る	金丸 重嶺

語 学

現代英語の基礎知識 '71	ダイヤモンド社編
現代イタリア語の話	岩倉具忠訳

文 学

三島由紀夫短篇全集 全6巻	三島由紀夫
芝 桜 上・下	有吉佐和子
作中人物	石川 達三
万葉集難訓考	伊丹 末雄
冷たい水の中の小さな太陽	フランソワーズ・サガン
ソヴェト詩人選	ソヴェト文学研究会
コレット著作集 全12巻	コレット
現代フランス小説 全8巻	

児 童

トンデモネズミ大活躍	ポール・ギャリコ
ムギワラの季節	庄野 英二
こどもカラー百科 全8巻	学習研究社編
ママお話しさせて (秋の巻)	教育童話研究会編
もしもしお電話	松谷みよ子

郷土資料

小泉八雲書簡	小泉 八雲
西田千太郎日記	西田千太郎
那賀郡史	大島幾太郎

レファレンス室

和漢三才図会 上・下	寺島 良安
現代中国事典	中国研究所編
国民生活白書 昭和45年版	経済企画庁
体育科学事典	猪飼道夫等編
水産年鑑 昭和45年版	水産年鑑編集委員会編

2. 視聴覚資料 (映画 [16ミリ] フィルム)

番号	題 名	巻 数	内 容	対 象
448	安 全 教 室	C 2	NHK教育TVで小学校児童の安全教育について放送したものである。現下の交通事情の下にあって (最大の関心事として) ある処の児童の安全を願う人命の尊さを児童に体得させようとするもので、特に基本となる番組を16ミリ映画フィルムにおさめたものである	幼 児 小 (低学年)
450	大さんご礁の生物	C 2.5	さんご礁の生物の生態等を水中カメラにより撮影したものである	成 人
451	オーケストラ協奏曲	C 2.5	シドニー交響楽団の生活と仕事	〃
452	南 回 帰 線 の 人 々	C 2	オーストラリア中央部の開発	〃
454	オーストラリアの浜辺にて	C 2	オーストラリアの海岸での1日、家族連れの行動、波乗り遊びをする人々、サーフボード、水難救助員人命救助祭りなど	〃
456	オーストラリアの地図を作る	C 2	オーストラリアの地図作りに関連したオーストラリアの開発事業	〃
357	走 れ ビ リ ー 号	C 1	メルボルンに近いダンデノン山脈中のエメラルドとベルグレイプの間を走る狭軌の鉄道、ビリー号	〃
358	シドニーオペラハウス	C 1	シドニー、オペラ劇場	〃
460	開幕せまる日本万国博	C 3	開幕せまる日本万国博の会場等の模様をフィルムにおさめたもの	〃
461	EXPOニュースNo.6	C 3	EXPOニュース	〃
462	〃 No.7	C 1.2	〃	〃
463	〃 No.8	C 1.5	〃	〃
464	〃 No.9	C 1.5	〃	〃
465	〃 No.10	C 1.5	〃	〃
466	〃 No.11	C 1.5	〃	〃